



イフサンの かんかく：すうはい の ちようてん

しんあい なる ムスリム の みなさま！

わたしたちの ぜんのうの しゅ は、 つぎ の ように つげて おられます。「…… アッラー に じぶんじしん を あずけて いる おこない の ぜんりょう な もの には、 しゅ の みもと に ほうしゅう が ある だろう。 かれら には おそれ も なく、 なげき も ない だろう。」¹

また、 ハディース の なか で わたしたち の よげんしゃ 是 は こう かたっています。「ほんとう に、 アッラー は すべての もの に ぜん を めいじた。」²

しんあい なる しんこうしゃ の みなさま！

しんこうしゃ の とく の ひとつ に、 イフサンの いしき が あります。 イフサンの ほんしつ とは、 かんぜん な しんこう を もつ こと です。 ぜんのう の アッラー (スーパーナワ タアーラー) が む から うちゅう を そうぞう し、 とうち する こと、 また その しもべ に かんたい である こと を、 ころろ の そこ から しんじる こと です。 だれ より も、 なに より も しゅ (スーパーナワ タアーラー) を あいする こと です。 クルアーン を みちびき として、 あいすべき よげんしゃ ムハンマド ・ ムスタファ 是 を もはん として、 いのち を あたえる イスラーム の げんそく を きはん として、 せいじつ に うけいれる こと です。 イフサン とは、 タウヒード を もって みずから の ないめん を きずき あげ、 アッラー を おもい おこして たましい の しずけさ を もとめる こと です。

しんあい なる しんこうしゃ の みなさま！

わたしたち の よげんしゃ 是 は こう かたっています。「イフサン とは、 あたかも アッラー を みるか の ように アッラー に つかえる こと である。 この けんしん の きょうち に いたれ なくとも、 アッラー が あなた を みている という こと を いしき しなさい。」³ ハディース にも あらわされている とおり、 イフサン とは、 ただ アッラー (スーパーナワ タアーラー) の み の しもべ と なって、 いつでも アッラー (スーパーナワ タアーラー) を みているか の ように 生きる こと です。

イフサンの かんかく を もって 生きる しんこうしゃ は、 その れいはいを じぶん に とつて の ミウラージュ と します。 ザカート を とおして じぶん の しゅうにゅう を せいしんてき な にごり から きよめ、 ざいさん に しゅくふく を もたらし、 どうほうあい を つよめます。 さいかい に よつて あく から み を まもり、 からだと たましい を いやします。

イフサン を しる しんこうしゃ は しんせつ です。 だれ の こと も きずつけ ません。 しんらい に あたい する ひと であり、 しんよう を うらぎつたり、 たにん や こうきょう の けんりを しんが い したり しません。 とくしん の ひと であり、 うそ や ちゅうしょう、 かげぐち や うわさばなし、 にくしみ や ねたみ と も えん が ありません。

しんあい なる しんこうしゃ の みなさま！

「そして しゅ から の ゆるし と、 しよてん と だいち ほど ひろい らくえん へ いそぎ なさい。 それ は おそれる もの の ため に ようい された もの」⁴ との めいれい に したがひ、 ラマダンの じび と しゅくふく の くうき から おんけい を える ように しましょう。 しゅ (スーパーナワ タアーラー) が さずけて くださった しゅくふく を、 ひつよう として いる きょうだい、 しまい と わかちあい つづけ しましょう。 しゅ (スーパーナワ タアーラー) の ゆるし を よろこぶ ため に、 じび の みち を あゆみ しましょう。 せかい を うつくしく し、 しもべ として の ちようてん である イフサンの いしき を とおして、 らいせ を はえある もの と しましょう。

¹ Baqarah, 2/112.

² Tirmidhi, Diyat, 14.

³ Bukhari, Tafsir, (Luqman) 2.

⁴ Al-i 'Imran, 3/133.